



T S U N A G U

小から中への滑らかな接続にむけて

我孫子市教育委員会 小中一貫教育推進室

令和5年11月20日
我孫子市小中一貫教育だより
第310号



我孫子市マスコットキャラクター
「手賀沼のうなぎさん」

我孫子市が小中一貫教育で目指す子ども像

- 「ふるさと我孫子」を愛し、誇りに思う子ども
- 確かな学力を身につけ、夢を持ちチャレンジする子ども
- 自分に自信を持ち、自他を大切にする子ども



布佐地区キャラクター
「ふさだ だしお」

Abi-ふるさとの授業実践の様子を紹介するうな～！

Abi-ふるさと「あきとなかよし」

11月10日に新木小学校の第1学年で、Abi-ふるさとの一環として、生活科「あきとなかよし」の学習が行われました。

最初に、公園探検に行った時のことを思い出しながら、公園で見つけたものを発表します。きのこや、イチョウ、コスモス、ドングリの他、大きい葉っぱ、長い葉っぱ、赤い葉っぱなど、形や大きさ、色の違いにも着目して、公園で見つけた秋をたくさん発表しました。

次は、公園で見た秋の色を色鉛筆でワークシートに5つ塗ります。すぐに、赤や茶色、黄色、緑など各々がイメージする秋の色を塗りました。色が塗れたことから、秋っぽい形も想像し、ワークシートに描きました。ドングリやイチョウのような形を描いている児童が多くいました。

ワークシートを書いた後、隣や前後でペアを作って友達と考えを共有します。友達も同じような色や形を想像していたことが分かりました。

その後、先生が夏の公園探検と秋の公園探検の写真をモニターに映して、みんなで夏と秋の違いを共有しました。「木が無くなった」「いや、葉っぱが落ちたんだ」等、モニターを見ながら自分の考えをみんなで共有し、理解を深めていきます。最後に、ワークシートにも、夏と秋の違いをたくさん書き、班の友達に発表しました。

授業を通して、自分たちの住む、身近な公園にある自然に着目して、「秋」という季節の特徴を考えることができました。



Abi-ふるさと「田口静」

新木小学校の6年生が、Abi-ふるさとの一環として地域の偉人である「田口静」について学習しました。

導入として、「田口静」の写真を見ながら、「どんな人だったのだろうか？」と想像しました。子ども達は、それぞれが感じた印象から想像したことをコラボノートに入力します。大型モニターを使ってそれぞれの考えを全体で共有し、和やかな雰囲気ですべて共有しました。

続いて補助教材「ふるさと我孫子の先人たち」の田口静のページを読みました。そこから「田口静はなぜ人々から慕われていたのだろうか？」という学習課題を立て、補助教材に田口のすごいところをアンダーラインし、グループでそれを出し合いながら端末に映っている「くらげチャート」の足に記入して共有しました。子ども達は一生懸命に補助教材を読み返しながらアンダーラインを引き、端末とも向き合っていました。

次に、「田口静はどんな思いでこういったことをしたのだろうか？」を話し合いました。「少しでも多くの人、貧しい人を助けたい」「たくさんの人を笑顔に」「我孫子に貢献したい」「自分よりも他を優先」といった考えが多く見られました。

最後に、学習課題に対するまとめをワークシートに記入しました。多くの児童が田口が人々に慕われていた理由について明確に記載することができました。担任からはコホミンに田口の銅像が立っていることや湖北小のプール開きに学校医として田口が出席していた写真が紹介され、地域の偉人として「田口静」への関心をさらに高めることができました。





TSUNAGU

令和5年11月20日
我孫子市小中一貫教育だより
第311号

小から中への滑らかな接続にむけて

我孫子市教育委員会 小中一貫教育推進室



我孫子市マスコットキャラクター
「手賀沼のうなぎさん」

我孫子市が小中一貫教育で目指す子ども像

- 「ふるさと我孫子」を愛し、誇りに思う子ども
- 確かな学力を身につけ、夢を持ちチャレンジする子ども
- 自分に自信を持ち、自他を大切にしている子ども



布佐地区キャラクター
「ふさだ だしお」

Abi-ふるさとの授業実践の様子を紹介するうな～！

Abi-ふるさと「安全マップを作ろう」

11月13日に布佐南小学校の第4学年で、Abi-ふるさとの一環として総合的な学習の時間「布佐まちづくりマップを作ろう」の学習が行われました。

最初に、今までやってきたことの確認、今後やることの見通し、そのために今日やることは何かを明確にしてから授業がスタートしました。前時は、ハザードマップで布佐の町に災害が起きた時にどのような施設があるかを学習しました。

本時は3つの施設（气象台公園、布佐南近隣センター、布佐南公園）のグループに分かれて、町探検で調べてきたいことを考えていきます。まずは、各自ワークシートにその施設に「何が置いてあるか。」「何のためのものか。」「誰が置いたのか。」を予想して書きました。前時までには社会科で学習したことも思い出しながら、想像を膨らませて書いていました。また、聞きたいこと、調べたいことなども考えてワークシートに書きました。



その後、グループになって情報を共有しながら、町探検の時に質問したい内容をまとめていきます。最後は黒板に班ごとに質問したいことを書き、学級全体で内容を共有しました。

町探検で調べてきたいことを考える学習を通して、布佐や我孫子市のことをもっと知りたいという思いをより高めることができました。

Abi-ふるさと「ふるさのいいところすごろく作り」

11月16日に布佐小学校の第3学年で、Abi-ふるさとの一環として、総合的な学習の時間「ふるさのいいところすごろく作り」の学習が行われました。これは、国語の授業で行った「布佐のいいところを家族にインタビューし、文章でまとめる学習」の発展でもあります。

インタビューで発見した布佐のいいところを整理し、「ふるさのいいところすごろく」を作ります。本時では、前回までそれぞれの児童が付箋に書いた布佐のいいところを、班ごとに模造紙に貼り付けながら、すごろくの完成を目指しました。



付箋には、「おいしいお米がいっぱいとれた。3マス進む。」「岡田武松博士が住んでいた。2マス進む。」「楽しみなお祭りの日を間違えた。1回休み。」など、社会科の学習とのつながりや、高学年で学習する我孫子の先人について書いていた児童もいました。先生から、「同じ内容をまとめてみては？」「もっと詳しくするとどんなこと？」などのアドバイスをもらいながら作成に励み、自分が見つけたいところを仲間に伝え合う姿に、郷土を大切に思うことの大切さを感じました。



次回は、自分たちでつくったすごろくで遊び修正を加えます。最後の授業では、他の班に紹介することで、布佐のよさを学級全員で共有するそうです。授業を通して、身近な地域について目を向け、そのよさにたくさん気づく児童が多くいました。



TSUNAGU

小から中への滑らかな接続にむけて

我孫子市教育委員会 小中一貫教育推進室

令和5年12月1日

我孫子市小中一貫教育だより

第312号



我孫子市マスコットキャラクター「手賀沼のうなぎさん」

我孫子市が小中一貫教育で目指す子ども像

- 「ふるさと我孫子」を愛し、誇りに思う子ども
- 確かな学力を身につけ、夢を持ちチャレンジする子ども
- 自分に自信を持ち、自他を大切にする子ども



布佐地区キャラクター「ふさだ だしお」

Abi-ふるさとと Abi-キャリアの授業実践の様子を紹介するうな～！

Abi-ふるさと「手賀沼のひみつを発信しよう～わたしたちにできる『手賀沼への貢献』～」

11月21日に我孫子第一小学校の4年生が、Abi-ふるさとの一環として総合的な学習の時間「手賀沼のひみつを発信しよう～わたしたちにできる『手賀沼への貢献』～」の学習を行いました。

本時までに、アクション1「手賀沼のひみつを見つけよう」を実施しており、本時はアクション2「手賀沼を大切にしていくために、自分たちができることを考え、実行しよう」です。本時では、手賀沼をよりよくしていくために、自分たちにできる取り組みについてグループで話し合い、具体的に考えていきます。



はじめに、手賀沼課の方からの動画を見て、手賀沼に関わる人の思いについて理解を深め、活動を応援してもらいました。その後、「手賀沼をよりよくするために、自分たちにできること」を今までまとめてきたワークシートをもとに、グループになって話し合います。出た意見を「一人で」「みんなで」「すぐできる」「じっくり時間をかけて」の4つの視点で整理し、実践できる取り組みを班ごとに短冊に書きました。

書いた短冊は、黒板の4つの視点の十字グラフに貼っていきます。「ごみを拾う」「動画やポスター、チラシ、リーフレットを作る」「イベントに参加する」「水を再利用する」等、たくさんの考えが発表されました。発表に対する質問では、「作る目的は何ですか」「どこに貼るのですか」「歴史を知る理由は何ですか」等、より活動を具体的に質問がたくさんありました。

最後に、十字グラフを見て、気付いたことを共有しました。「発信していく」「みんなでやるのが大切であり、効果も出る」等の意見が出ました。学習を通して、自然と我孫子市を思う気持ち、手賀沼をよりよくしたいと思う気持ちがどんどん高まっていく授業でした。今後は、考えた取り組みから計画を立てて、活動を実行していく予定です。

Abi-キャリア「認知症サポート講座」

11月27日に湖北台中学校の3年生で Abi-キャリアの一環として「認知症サポート講座」の学習が行われました。

前半は「認知症」について学びます。「高齢者とはいくつからなのか」「認知症の症状とは」「我孫子市の高齢者に占める認知症の比率」など、詳しい説明を聞きました。記憶力の低下や物忘れが多くなると、意欲や気力が無くなったようになってしまう話では、具体的な例を交えて聞くことで理解が深まりました。また、75歳以上は12分の1が認知症、85歳以上は5分の1が認知症、という認知症の方の多さに生徒たちは驚きました。



後半は、生徒が「子ども」と「母親」役になり、認知症の方の「役割演技」を行いました。認知症の特性や認知症の方への話し方・接し方を体験します。その中で「基本的な対応の7つのポイント」も学びました。最後に認知症サポーターとして「認定証」を受け取り、生徒はさらに意識化されました。

湖北台地区を見守る社協の方々やお年寄りの活動など地域の様子を知り、自分の今後の行動に生かせるのではないかと思う時間となりました。



T S U N A G U

小から中への滑らかな接続にむけて

我孫子市教育委員会 小中一貫教育推進室

令和5年12月1日

我孫子市小中一貫教育だより

第313号



我孫子市マスコットキャラクター
「手賀沼のうなぎさん」

我孫子市が小中一貫教育で目指す子ども像

- 「ふるさと我孫子」を愛し、誇りに思う子ども
- 確かな学力を身につけ、夢を持ちチャレンジする子ども
- 自分に自信を持ち、自他を大切にする子ども



布佐地区キャラクター
「ふさだ だしお」

Abi-ふるさとの授業実践の様子を紹介するうな～！

Abi-ふるさと「20年後の未来の我孫子」

11月21日に我孫子第一小学校の6年生が、Abi-ふるさとの学習の一環として、総合的な学習の時間「20年後の未来の我孫子」の学習をしました。本時は「誰もが水辺と共に住み続けたいなるまち我孫子プラン」を考えるという課題に、我孫子の現状と課題を理解したうえで「20年後の我孫子像」についてパネルディスカッションを行い、プランを広めたり深めたりする学習です。



まず、パネリストによる立論です。それぞれのプランから4名ずつが全体の前に出て、自分たちの主張を絵資料に沿ってわかりやすく説明しました。「活気あるまち」では「撮影スポット」「空き家で飲食店」等、「自然豊かなまち」では「植樹体験」「手賀沼で水力発電」等、「あたたかいまち」では「子供支援活動」「リラックスできる和風カフェ」等、「健康でいられるまち」では「医療タクシー」「スーパーに学校給食コーナー」等の提案でした。この時、フロアの子も達は手元にある「なるほど(納得)」「うーん(疑問)」の札をピンポイントに持ち上げたり、要点のメモを取りながら提案に対する自分の考えをワークシートに記載したりしています。

続いて、各プランそれぞれの代表4人が全体の前に出て、パネリスト同士による質問と反論、フロアとの質疑応答を行います。司会者の見事な進行・評価によって、すべてのプランに対しての質問や発言機会が均等に与えられ、時間も予定通りに進みました。

全プランに対する質疑応答終了後、グループで最終的な意見交換をして結果を全体の前で要約して発表します。質疑応答の際、「まだ考えていません」「これから検討します」といった回答がされていた案件についても、しっかりと答えを出していたことに感心しました。

自分たちが暮らす我孫子の地に誇りと愛着をもち、将来のまち創りの担い手を育てていくことは、地域の公立学校に課せられたミッションです。この子ども達を引き継ぐ中学校でも同じ思いと目的をもって、さらなる高い次元での実践が為されることを期待しています。

Abi-ふるさと「昔遊び」

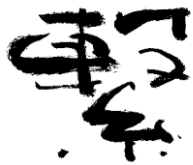
11月28日に根戸小学校の1年生が、Abi-ふるさとの一環として「昔遊び」の学習がありました。小学校1年生が、社会福祉協議会の方々、地域の方々、近隣の幼稚園や保育園の園児と一緒に昔遊びをします。

最初に「はじめの会」をしました。1年生の代表児童が会を堂々と進行します。会の中では校長先生から「学校教育目標の達成を目指して頑張ること」、社協の代表の方からは「元気よく楽しむこと」を目標に頑張ろうとお話がありました。また、学年の先生からは「楽しく、ルールを守って遊ばしましょう」とめあてを確認しました。

昔遊びの活動は「紙とんぼ」「まりつき」「紙ヒコーキ」「お手玉」「こま」「めんこ」「割りばし鉄砲」「折り紙」「あやとり」と盛り沢山です。教えてくれる昔遊びの名人には「お願いします」や「ありがとうございます」など、きちんと挨拶ができました。遊びが上手な友達を見つけると「すごーい！」と拍手を送る姿もありました。幼稚園や保育園の園児にはドングリをプレゼントして、一緒に遊びました。

学校が中心となって、地域をつなぎ、参加しているみんなが楽しめる会となりました。地域の温かさをたくさん感じる事ができる時間でした。





TSUNAGU

小から中への滑らかな接続にむけて

我孫子市教育委員会 小中一貫教育推進室

令和5年12月1日

我孫子市小中一貫教育だより

第314号



我孫子市マスコットキャラクター
「手賀沼のうなぎさん」

我孫子市が小中一貫教育で目指す子ども像

- 「ふるさと我孫子」を愛し、誇りに思う子ども
- 確かな学力を身につけ、夢を持ちチャレンジする子ども
- 自分に自信を持ち、自他を大切にする子ども



布佐地区キャラクター
「ふさだ だしお」

Abi-ふるさとの授業実践の様子を紹介するうな～！

Abi-ふるさと「布佐中登校」

11月24日に布佐小学校と布佐南小学校の6年生が、布佐カリキュラムの一環として、布佐中学校へ登校し、「布佐タイム」を見学しました。中学校の先生が小学生を校内案内します。

最初に、布佐小と布佐南小とで一緒のグループになった児童同士が、自己紹介をしました。緊張していた児童は打ち解け、いつのまにか笑顔になっていました。

「布佐タイム」には様々な活動があります。茶道や郷土芸能、気象学、なぎなた等、初めて触れるものがたくさんありました。一生懸命活動に取り組む先輩たちを間近で見る児童の表情は真剣そのものです。「布佐中へ進学したら、何をやろうかな」と今から楽しみにしている様子でした。

最後に、代表児童からの感想発表がありました。たくさんの「発見」について話をしていました。どの児童にも、思い思いの「発見」があったことでしょう。

今回の布佐中登校は、小学生にとって「中学生ってすごいな」「早く私も布佐中に行きたいな」と考える機会になりました。また、4月から同じ学校へ通うことになる小学生同士が仲を深められる素敵な時間となりました。



Abi-ふるさと「地域安全マップをつくろう」

11月28日に湖北小学校の4年生が、Abi-ふるさとの授業として「地域安全マップをつくろう」についてコラボノートを効果的に使用しながら学習しました。

先生が本時の目標を「地域安全マップを作ろう～きけんなところをかこう～」であることを児童に伝え、取り組む内容を説明しました。本時では児童が自分のタブレットを用いて、コラボノート上にある自分が住む地区周辺のマップに「車が多い」や「道が暗い」などと書かれた付箋や事前に撮ってきた写真を貼り、みんなで共有していく学習です。

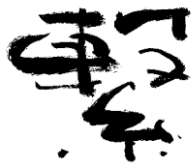
児童はコラボノートを操作し、自分たちが住む地区の危険個所をどんどん書き込んでいきます。マップを共有しているので、「あー、ここかぁ。」「ここなんだっけ？」などと人の付箋を見ながら話している児童もいました。写真の大きさに気を付けたり、付箋を見やすく貼ったり、みんなで見ることを意識しながら作っていました。自分の生活圏だからこそわかることや児童の目線だから気付けることなどがたくさんあり、この活動を通して児童が改めて湖北地区を見直すことができる学習となっていました。

続いて、大型モニターを使って各地区の危険個所の特徴を共有しました。児童が貼った写真を見ながら「どんなことが危険だと思うか」を多くの児童が手を挙げ、発表していました。

最後にワークシートに振り返りを記入します。「みんなの周りがそんなに危険なんだ。」や「安全なところも危ないところもいっぱいあることがわかった。」などの意見がでてきました。

児童それぞれの目線で身近な地区を振り返り、自分たちの住む湖北地区を考える素敵な授業となりました。





T S U N A G U

小から中への滑らかな接続にむけて

我孫子市教育委員会 小中一貫教育推進室

令和5年12月7日

我孫子市小中一貫教育だより

第315号



我孫子市マスコットキャラクター
「手賀沼のうなぎさん」

我孫子市が小中一貫教育で目指す子ども像

- 「ふるさと我孫子」を愛し、誇りに思う子ども
- 確かな学力を身につけ、夢を持ちチャレンジする子ども
- 自分に自信を持ち、自他を大切にする子ども



布佐地区キャラクター
「ふさだ だしお」

Abi-キャリア・Abi-ふるさとの授業実践の様子を紹介するうな～！

Abi-キャリア「仕事ってなんだろう」

11月29日に湖北台東小学校の第3学年で、Abi-キャリアの一環として総合的な学習の時間「仕事ってなんだろう」の学習が行われました。12月に予定している校外学習では、仕事体験テーマパークに行く予定です。本時では、校外学習に行く前に、「仕事とは何か」「どんな種類の仕事があるのか」「なぜ働くのか」を考え、学級で共有していきます。



最初にみんなで「働くのは誰か」を考えました。ほとんどの大人、親、先生、おじいちゃん、おばあちゃんなどの意見が出ました。また、「僕も家や学校で働いているよ」という考えには「たしかに～」とみんなの声がそろいました。

次に「なぜ働くのか」を考えました。「生活をするため、ご飯を食べるためにお金をもらう。」「いろいろな人に喜んでもらうため」「家族のため」などの具体的な考えが出ました。担任の「みんなは学校で、なぜ仕事をするの」の問いには、「学校にいるみんなが気持ちよく過ごせるように」や「将来の自分のため」「大人になったときに困らないように」など、周りの友達や将来の事を見据えた意見がたくさん出ました。

その後、日本には約1万7千の仕事があることを知り、仕事スリーヒントクイズをしました。クイズは楽しく、どんな仕事があるのかを学びました。仕事についていろいろと考えることで、自分が将来どんな仕事をしたいのかをイメージすることができました。

次回は、自分の履歴書を書いていきます。自分の得意なこと、趣味、自己PRなどについて自分自身としっかり向き合って書いていく予定です。

Abi-ふるさと・Abi-キャリア「わたしの町はっけん」

11月30日に湖北台西小学校の第2学年で、「わたしの町はっけん」の学習が行われました。本時まで、自分たちが住んでいる「湖北」の町を探検しています。また、探検を通して気づいたいろいろな疑問や新たな興味についてまとめ、それを解決するためにインタビューを行ってきました。本時は、これまでの学習を班ごとに取りまとめ、1年生に「こほくのステキ発表会」を行います。合わせてこれまでの活動の成果を見ていただくために、地域の湖北台近隣センター、飲食店ラコッタ、柏鳳保育園の方々もお呼びしました。



2年生は数人のグループを作り、1年生や地域の方に発表を行いました。発表を聞く1年生が楽しめるように、ペープサートや3択クイズにして発表しました。「このお店には子供用の椅子は何個あるのでしょうか」など子供目線の興味深い問題もたくさんありました。また、みんな上手に1年生に発表することができました。1年生も、最後まで飽きずに発表やクイズを楽しみ、どの1年生も「すごく楽しかった」と感想を述べていました。



今回の活動を通して2年生は、地域を思う気持ちや、働くことへの意欲を高めることができました。1年生は地域への興味を広げることができました。また、今後2年生になることへの喜びも持つことができましたようにも見えた交流活動になりました。



TSUNAGU

小から中への滑らかな接続にむけて

我孫子市教育委員会 小中一貫教育推進室

令和5年12月14日
我孫子市小中一貫教育だより
第316号



我孫子市マスコットキャラクター
「手賀沼のうなぎちゃん」

我孫子市が小中一貫教育で目指す子ども像

- 「ふるさと我孫子」を愛し、誇りに思う子ども
- 確かな学力を身につけ、夢を持ちチャレンジする子ども
- 自分に自信を持ち、自他を大切にする子ども



布佐地区キャラクター
「ふさだ だしお」

Abi-ふるさとの授業実践の様子を紹介するうな～！

Abi-ふるさと「中野治房」

11月30日に、我孫子中学校の第1学年で、Abi-ふるさとの一環として我孫子の先人「中野治房」の学習をしました。

「中野治房」について、その生い立ちから学んでいきました。「ふるさと我孫子の先人たち」を資料に、わかったことをワークシートにまとめていきます。途中、担任の先生から大型モニターに映したスライドや写真・イラストなどの資料の説明を受けながら、「中野治房」の人物像を膨らませていきました。

「中野治房」が発見したガシャモクについても学び、きれいであった昔の手賀沼から現在の手賀沼に至るまでの変遷なども同時に学んでいました。先生からの「ガシャモクがなくなった手賀沼を見たときに、中野治房さんはどう思うだろうか？」と質問があり、生徒それぞれが中野治房の立場になって考えました。そして、「過去の手賀沼のようにきれいな手賀沼を取り戻すために自分たちに何ができるだろうか？」に対して班で意見を出し合いました。「ポスターを作る」「ボランティアに参加する」「身の回りの環境を整える」などの身近なものから、「外来種を減らす」「大切にしていけるものだと次世代に伝えていく」など新しいアイデアも出ていました。

授業の振り返りに「もっと昔の手賀沼みたいになってほしい。」や「手賀沼、当時の村のためにこんなに力を使った人がいたことに感動した。」と書いている生徒がたくさんいて、我孫子市のこと、我孫子の先人を考える素敵な授業となっていたことが伝わってきました。



Abi-ふるさと「岡田武松」

12月5日に布佐小学校の第6学年で、総合的な学習の時間の布佐カリキュラム「岡田武松」の学習が行われました。偉人である「岡田武松博士」について、近隣センターふさの風「岡田武松博士研究部会」の部会長・前田寿雄さんが講師で来てくださいました。

導入として、前田さんが「岡田博士から連想されること」と問うと、子ども達は、即座に「台風という名前をつけた」「気象の専門家」「震災イチョウ」といった言葉を口にしました。5年生でも多少の学習をしているということですが、6年生の子ども達が地域の偉人について自信をもって答えられることに「ふさカリキュラム」の意義を感じました。

続いて、前田さんから岡田博士の生誕や学問の道に進んだきっかけ、「台風」「梅雨」「津波」の3つが岡田博士を語る時のキーワードになるということ、日露戦争の日本海海戦で日本を勝利に導いたとされる電文についての話を聞きました。さらに、博士と親交のあった地元延命寺の宝保育園に博士の寄贈した子どものための本が残っていることや住職とのエピソードなどの話もありました。

前田さんからは郷土の偉人に誇りをもつこと、そして家族にも郷土の偉人について学んだことを話してほしいと子ども達に諭しました。また、「布佐という小さな町からでも志があれば世の中の役に立つことができる」という励ましとともに、「今日の授業は博士の身長160cm中の10cm程度の内容。来年は博士の生誕150周年でもあり、残りは中学校に行ったらしっかりと調べて学んでほしい」という話がありました。小中一貫の「ふさカリキュラム」を通した中学校でのさらに深い学びに期待したいと思います。





TSUNAGU

小から中への滑らかな接続にむけて

我孫子市教育委員会 小中一貫教育推進室

令和5年12月14日
我孫子市小中一貫教育だより
第317号



我孫子市マスコットキャラクター
「手賀沼のうなぎさん」

我孫子市が小中一貫教育で目指す子ども像

- 「ふるさと我孫子」を愛し、誇りに思う子ども
- 確かな学力を身につけ、夢を持ちチャレンジする子ども
- 自分に自信を持ち、自他を大切にする子ども



布佐地区キャラクター
「ふさだ だしお」

Abi-キャリア・Abi-ふるさとの授業実践の様子を紹介するうな～！

Abi-キャリア「職場体験学習」

12月7日に、湖北台中学校の第2学年で、Abi-キャリアの一環として職場体験学習の事前集会を行いました。湖北台中学校では校内にハローワークを開設していて、地域の事業所等からの求人票を掲示し、生徒は自分の希望する職場へのエントリーシートを記載しています。シートでの書類審査を通過した生徒から順に面接を受け、合格して初めて体験できる職場が決定するという実社会での就職体験を模した質の高い取り組みを実施し、主体性を伸ばしています。



まず、ハローワークの所長を務めた職員が、大画面にイラスト等を映しながら、軽快な口調で職場体験当日に起こってしまう可能性のある事案を生徒に伝えます。「集合時間に遅れたら」「具合が悪くなったら」「仕事中にお店の物を壊したら」等々ですが、それぞれのケースについて生徒に投げかけてどうするかを考えさせました。生徒たちは周囲の仲間と真剣に話し合い、口々に発言します。それらの意見をうまくまとめながら全体で共有していきました。

その後、所長を務めた職員から「感謝の心と一生懸命な姿を期待したい」と励ましがりました。続いて代表生徒からは「台中生の自覚をもつ」「社会のルールとマナーを守る」「誠心誠意働く」と決意表明がありました。さらに学年主任の先生からは「表からは見えない事業所の努力や工夫を学んでほしい」という話があって本時は終了となりました。生徒たちは顔を上げ、背筋をしっかりと伸ばし、意欲とやる気に溢れている姿がとても印象的でした。

今年度、湖北台中学校のキャリア学習は1年生で Twice プラン、2年生でハローワークと行われています。これがしっかりと学校に根付き、さらに小学校で職業人講話などが充実し、小中を一貫させた総合学習でのカリキュラムが完成することを期待したいと思います。

Abi-ふるさと「3校合同挨拶運動」

12月11日の朝に実施された布佐南小、布佐小、布佐中の3校合同挨拶運動を紹介します。

【布佐南小学校 HP より】



この挨拶運動は、地域の小中学校で連携して、布佐の小中学校だけではなく町全体を笑顔と活気に溢れさせたいという願いから、3校の児童会役員と生徒会役員がコラボして、実現させたものです。そして、毎年、この取り組みが継続できるように、年間計画に組み込んで実施をしています。



今年度は、3校児童会と生徒会がオンライン会議で打ち合わせを行い、アイディアを出し合い、「3校合同立て看板」と「缶バッチ」を作

りました。今日は、そのお披露目の日です。

南小の正門前と布佐駅改札前で、3校児童生徒が元気な挨拶をしました。児童や生徒が主体となって、「よりよくなりたい！」という一心で行う行事は、是非とも、今後も続けていきたいです。



「笑顔と活気でやってみよう！」は、南小の合言葉ですが、その精神

は、布佐のまち全体を活性化させる力を持っています。児童会役員の皆さんを中心とした子ども達の活動を、職員や保護者の皆さん、地域の皆さんで一丸となって応援していきます。



TSUNAGU

小から中への滑らかな接続にむけて

我孫子市教育委員会 小中一貫教育推進室

令和5年12月15日
我孫子市小中一貫教育だより
第318号



我孫子市マスコットキャラクター
「手賀沼のうなぎちゃん」

我孫子市が小中一貫教育で目指す子ども像

- 「ふるさと我孫子」を愛し、誇りに思う子ども
- 確かな学力を身につけ、夢を持ちチャレンジする子ども
- 自分に自信を持ち、自他を大切にする子ども



布佐地区キャラクター
「ふさだ だしお」

Abi-ふるさと・Abi-キャリアの授業実践の様子を紹介するうな～！

Abi-ふるさと「わたしの町はっけん」

12月12日に我孫子第三小学校の2年生がAbi-ふるさとの一環として生活科「もっと知りたい町の大すき」から、町探検で見たり聞いたことでの発表会を行いました。

最初に、大型モニターを使って町探検の様子を映し出し、振り返りました。子ども達はその時のことを思い出しながら、自分が調べたことや感想を得意気に話していました。そして、本時のめあて「たんけんした場所をしょうかいしよう」を確認し、合わせて発表時の注意点を「話す」と「聞く」に分けて確認しました。子ども達からは、「ゆっくり、ハッキリ」や「目を見て」とともに、「聞いて学ぶ」「うなずく(意思表示する)」などの発言がありました。



続いて、教室の外に出て屋台方式での発表会となります。4カ所のブースを設け、子ども達は班ごとで移動しながら発表を聞いて回り、発表グループを前後半で交代して行き、全部で8カ所の事業所等について発表されました。発表する側の児童は、発表の進め方を熟知して流暢に進行しました。聞く側の児童からは感想と同時に、具体的な驚きや発見が語られ、とても有意義な学びの時間となっていました。

発表終了後、教室に戻って振り返りをしました。「これからもっと町のことを知りたい」「行ったことがない店についても知りたい」といった次につながる意欲的な意見がでたことに本時の授業の素晴らしさを感じました。

「Abi-ふるさと」の検証として実施した授業でしたが、それだけでなく、キャリア教育の第一歩として、高学年での職業人講話や中学校での職場体験へと一貫して繋がっていくことが期待される授業でした。

Abi-キャリア「車椅子体験」

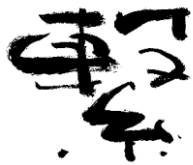
12月12日に根戸小学校の3年生がAbi-キャリアの一環として、車椅子体験をしました。本時は我孫子市社会福祉協議会と我孫子北地区社会福祉協議会の方が協力してくださり、車椅子に「乗る」体験と「押す」体験をする学習です。

最初に、車椅子の説明を聞きました。ブレーキや足置きなど、相手を車いすに乗せるときに気を付けなければいけないことを学びました。

続いて実際に「乗る」「押す」体験をしました。①直角のある道②狭い道③ガタガタ道④ジグザグ道⑤スピードを変えて押す道と、5つの道を体験します。児童は「曲がるときは大きく曲がるといいよ」「急カーブはゆっくりね」「ガタガタ道は勢いよく押さないと大変」など、対話しながら活動しました。また、慣れてくるとスピードが上がり、「速いと怖いよ！」といった声が聞こえたり、周囲の人と接触しそうになったりし、ゆっくり押す大切さを実感しました。



活動の後は振り返りをしました。「押すのは意外と難しい」や「車椅子に乗っている人を見かけたら手伝いたい」といった感想がありました。講師の先生からは、「今回は体育館という広くて平らな場所での体験でしたが、実際はアスファルトの道路であったり、側溝があったりより大変です。歩行者や自転車、自動車などにも気を付けてくださいね。」とお話がありました。この体験を通して、車椅子に乗る人、押す人の気持ちを味わうことができました。



T S U N A G U

小から中への滑らかな接続にむけて

我孫子市教育委員会 小中一貫教育推進室

令和5年12月20日
我孫子市小中一貫教育だより
第319号



我孫子市マスコットキャラクター
「手賀沼のうなぎさん」

我孫子市が小中一貫教育で目指す子ども像

- 「ふるさと我孫子」を愛し、誇りに思う子ども
- 確かな学力を身につけ、夢を持ちチャレンジする子ども
- 自分に自信を持ち、自他を大切にしている子ども



布佐地区キャラクター
「ふさだ だしお」

Abi-ふるさと・Abi-キャリアの授業実践の様子を紹介するうな～！

Abi-ふるさと「くらしを守る」

12月12日に、我孫子第三小学校の第3学年で、Abi-ふるさとの一環として社会科単元「くらしを守る」の学習を行いました。

最初に、これまでの学習や消防署見学で学んできたことについて、火事が起こって119番通報がされてからの関係各所の動きについて発表し、実際の我孫子市各施設の様子について整理をしていきました。

続いて、本時の課題「火事にそなえてどのような取り組みをしているだろうか」について、「自分や家での取組」「地域での取組」「消防署や市役所などの取組」の3つの視点で、調べ、まとめていきます。普段自分たちが生活の中で火事をおこさないため



に気を付けていることなど、経験をもとにまとめたり、我孫子市消防署が作成した「消防のはなし」から、火事発生時にすぐに対応するための工夫や準備についてまとめたりする姿が見られました。また、インターネット検索を活用して、情報を集める児童もいました。

私たちの我孫子市をどのように火事から守っているのか、また私たち自身がどんな行動をすることが大切なのか、最後に「自助」「共助」「公助」をキーワードにまとめました。地域を教材にすることで、子どもたちは体験的に学んでいきます。

Abi-キャリア「くらしを守る」

12月12日に、湖北台西小学校の第3学年で、Abi-キャリアの一環として社会科単元「くらしを守る」の学習を行いました。

子どもたちは、これまでに私たちのくらしを守るための消防署や警察の仕事について学んできました。今日の学習では、消防署や警察以外にも私たちのくらしを守っている地域の方に目を向けて、「地域の人たちは安全を守るためにどのようなことをしているか」を、2～3人組や、小グループで話し合いながら考えます。我孫子市内で行われている



られている実際の取組の写真や、教科書、社会科副読本「わたしたちの我孫子」、NHK for Schoolの動画など、様々な資料からわかったことや気づいたことを端末上のワークシートにまとめていきました。学習の中で、小学生が地域パトロールを行う取組も知り、自分たちの暮らす地域を自分たちで守る大切さについて考える機会となりました。

次の学習では、自分たちが地域の一員としてできることについて考えていきます。